

平成30年度第3回若葉区支え合いのまち推進協議会議事要旨

1 日 時 平成30年12月19日（水）10時00分～11時30分

2 場 所 若葉保健福祉センター3階 大会議室

3 出席者

- (1) 委員 赤間委員、荒木委員、井崎委員、岩澤委員、江口委員、大嶋委員、小川委員、菊次委員、小出委員、酒井委員、千脇委員、津田委員、角田委員、鶴岡委員、東田委員、長友委員、錦織委員、縫部委員、畑委員、花澤委員、林委員、日暮委員、平井委員、布施委員、真鍋委員、山内委員、和田(勝)委員
- (2) 事務局 富田保健福祉センター所長、飯島地域振興課地域づくり支援室長
石毛社協区事務所長、鈴木社協区事務所副所長、萩原高齢障害支援課長補佐、田中高齢障害支援課主査、黒木地域福祉課主査、小泉地域福祉課主任主事、木内高齢障害支援課主任保健師、

4 議題

- (1) 地域福祉活動の取組内容について
- (2) 「平成30年度若葉区支えあい助け合い団体の方々の交流会・話し合いの会について」の報告
- (3) その他

5 議事の概要

- (1) 地域福祉活動の取組内容について
植草学園大学、老人クラブ連合会の各委員が発表を行う。
- (2) 「平成30年度若葉区支えあい助け合い団体の方々の交流会・話し合いの会について」の報告について
井崎生活支援コーディネーターが報告を行う。
- (3) その他

6 会議経緯

(1) 地域福祉活動の取組内容について

○事務局

第2回推進協議会では、提出された地域福祉活動取組票を基に、東京情報大学、千葉市あんしんケアセンター千城台、生活支援コーディネーター、中野学園の委員の皆様から発表をしていただいた。今回も引き続き委員の皆様それぞれの取組み内容を共有し、活動

の参

考としていただきたく、委員からの発表を考えている。今回は2委員からお願いしたい。

まずは今後皆様との連携や協力が考えられる、今回新規に参加された植草学園大学さん、次に継続して推進協に参加されている老人クラブ連合会さんからの説明をお願いしたい。

○委員長

植草学園大学について平井委員から発表をいただきたい。

○平井委員

植草学園は、明治37年に、院内町に「千葉和洋裁縫女学校」を創設したのを起源とし、昭和26年に学校法人植草学園として認可となった。建学の精神として、徳育を教育の根幹として、国を愛し、心豊かな、たくましい人間の形成をめざすとともに、誠実で道徳的実践力のある人材を育成することをうたっている。

現在、大学・短期大学がある小倉キャンパス、高校・こども園がある弁天キャンパス、幼稚園がある美浜キャンパス、今春開設した千葉駅保育園の5つの学校、2つの保育園を運営している。生徒数は平成30年4月現在1823名となっている。

小倉町に、平成11年に短期大学、平成20年に大学を開設した。本格的な少子高齢化を迎える中で、地域の介護、保育、教育、保健分野の人材育成に力を入れている。

平成25年から3年間、企業と協同事業体を組んで、千葉県生涯大学校の指定管理者の指定を受けた。実践した事として、本学の強みをいかしたカリキュラムの見直しと作成、学習計画の作成、非常勤講師の選定・推薦等の運営である。平成28年からは、本学単独で指定管理を行っている。学校法人の使命である地域貢献の観点から公募した。

生涯大学校は、高齢者が新しい知識を身につけ、仲間づくりを図ると共に、授業参加による生きがいの高揚に資すること、地域活動の担い手となることを目的に昭和50年に開校し、現在は京葉学園、東葛飾学園、東葛飾浅間台教室、東総学園、外房学園、南房学園の各学園に園芸・陶芸の5分室を加えた5学園11教室で運営している。現在、開校以来4万人を超える高齢者が学び、卒業している。

高齢者の社会への参画意欲の高まり、急激な高齢化の社会に対して、高齢者が地域の担い手となるために、千葉県は生涯大学校に対して第二次マスタープランを発表した。

本学が生涯大学の指定に応募したコンセプトとしては、1点目は高齢者が豊富な経験を生かし、充実したセカンドライフを過ごすための素養を身につけ、心豊かで有意義な人生を送るための学習の場とすること、2点目として超高齢化社会を豊かに充実して過ごすために支え合う仕組みづくりを大切に考え、異なることを尊重し、個々の能力を引き出し活用する意識を高めることで、地域社会を磨き、人生のスキルアップをはかってもらうということである。これにより指定の内定をいただき、平成31年からの運営が始まる予定であり、本日学生募集のご案内を周知させていただいた。

次に、拠点福祉避難所指定の話をしていただきたい。

平成23年の東日本大震災のあと、4月に予定していた新入生歓迎会をとりやめ、全学

的な支援活動とし、義援物資の収集や、義援金の募金活動を行った。大学として「できることから」を合言葉に様々な活動を行っていたが、本学が学問の対象としている高齢者や障害者、幼児は、災害弱者であるため、その方々の対応を学んで行こうということで4本の柱からなる事業を立ち上げた。

一つ目は教育的見地から、災害、緊急時の専門力・人間力の育成の研究に取り組んだ。その結果、短大の福祉学科に、災害緊急時の介護という科目を立ち上げ必修化した。その授業ではHUGという避難所運営ゲームを取り入れた。静岡県が開発したもので、避難所で実際起りそうな事や場面を設定し、机上でどういう判断や対応をしていくかを考えていくものである。

これを通して、地域との関係が災害時重要になってくるということで、平成24年に若葉区との連携協定を締結した。平成29年には千葉市から特別な配慮が必要な方の避難所として、拠点福祉避難所の指定を受け、避難所運営訓練を実施している。これが2つ目の柱である。3本目としては、災害に関する研修会を毎年行っていること、4本目は、学生には要配慮者を理解するための体験学習を行っていることである。

今年度は10月31日に避難所運営訓練を行った。学生、職員が88名参加。身体障害の方が12名、知的障害の方が9名、認知症高齢者3名、介助者合わせて39名の方が、二次避難所として本学に避難する設定で行った。

開設の10時半からお昼を挟んで、避難訓練に参加してもらった。お昼ご飯は、アルファ米、豚汁などを食べてもらった。参加した学生の感想として、「障害者の方の接し方を学べた。」「災害時は臨機応変の対応が必要であるということを知った。」「聴覚障害の方のために筆談用の筆記用具を持参するべきだった。」「コミュニケーションの大切さを知った。」「今回障害者の方と接した経験を生かして、街中でのボランティアにつなげたい」という感想が寄せられた。来年度以降も継続的な訓練の実施を行い、マニュアルの改訂や、設備の改善を検討していきたい。今後も地域との連携を目指していきたいと思っている。

○委員長

ただいまの説明に対し、何か質問等があれば、発言をお願いしたい。

○委員

生涯大学の学生数は減っていると聞いているが、今の状況を聞きたい。

避難所運営訓練は一般のものも参加できるのか

○平井委員

学園によっては定員が満たされていない事も多い。民間でもカルチャースクールなどを行っているためと思われる。県として、園芸まちづくりコースという2年間のカリキュラムを新設して対応している。

HUGについては、今回は本学の学生が25名、生涯大学校19名、若葉区職員が6名の50名で開催。地域の方の参加は持ち帰って検討したい。

○委員長

次に、若葉区老人クラブ連合会について、和田委員から発表していただきたい。

○和田委員

現在、5月から市の会長を引き受けている。区の会長も引き受けているが、来年度から区は退こうと考えている。

区老連の作業として、①活動促進事業②健康づくり・介護予防支援事業③地域支えあい事業④活動支援体制強化事業として、市から80万円の補助金をいただいて様々な活動をしている。年2回、「わかばの風」という広報誌を作成し、3,000部を配布している。

市労連100のクラブで5,000名の会員がいるが、昭和63年25,000人いた会員が、毎年減少している。これは全国的な傾向である。全国でも800万人の会員が600万人まで減少していると言われている。平成26年からの5か年計画で、100万人増強運動というのを行っているが、減少は止まっていない。

若葉区は22クラブ、1,400名の会員がいる。減少の要因としては、60歳以上の方は、就労しているという労働環境の変化、個人主義という「意識の変化」、年金問題や介護保険などの行政の施策が高齢者向けになっているということ、公民館やコミュニティセンターなどで様々な同好会などが存在するようになった「社会的変化」と考えられる。

老人クラブのモットーは、「健康」「友愛」「奉仕」として取り組んでいる。もう一つのスローガンは「伸ばそう健康寿命、担おう地域づくり」である。

会員の減少は、会員増強運動を行っており進行中である。全国で会員が増えたクラブもあるが、新設のクラブであり、長く続いているクラブの会員は、減少傾向である。健康寿命は、平均寿命と10歳ほど差がある。健康寿命を延ばせば、10年間で5兆円ほどの医療費、介護費が削減になると言われている。

「担おう地域づくり」ということで、友愛活動、支えあい活動、介護予防、日常支援など地域包括ケアシステムが重要と考えている。

地域福祉活動の実態調査として、若葉区の各クラブで友愛活動をどのような形で行っているかを調査した。22クラブ中17クラブの回答を得ることができた。見守り・安否確認、通いの場づくり、生活支援活動、健康づくり・介護予防のカテゴリーで記入してもらった。その活動の予算は、会費、国からの補助金、自治会からの補助金である。若葉区では22クラブ中半分が自治会の補助金をもらって活動しており、半分が自治会から独立して活動している。

見守り・安否活動としては80歳以上を対象にしているクラブが多い。通いの場づくりとしては、日中に行っているところが多い。生活支援活動は、買い物代行など家事の手伝いであるが、老人クラブの活動としては一番定着していない活動である。健康づくり・介護予防は、グランドゴルフなどの体育系と手芸などの文化系の活動がある。元気でないと来られないものであるため、会員が高齢化している今では、開催しても参加者が少ないということがあるが、この活動が一番盛んである。

○委員長

ただいまの説明に対し、何か質問等があれば、発言をお願いしたい。

○委員

区老連に加入していないクラブはどれくらいか

○和田委員

市全体で130クラブ、8,000名の会員が未加入である。加入している数より多い。その理由は、市老連の会費は年300円であるが、その会費を払った分だけの価値がない、つまり市老連の活動が評価されていないこと、また未加入クラブでも、市からの補助金が出るという事と思われる。これだけ未加入会員が多いというのも全国的にはめずらしい。

○委員

未加入クラブに働きかけたら、会員増強も図れるのではないか

○委員

3年前に、未加入クラブに訪問して、加入を投げかけたが、新規加入はなかった。未加入の理由は、会員が高齢であり、遠方のイベントには参加できないということや、300円の会費が負担であるという事であった。補助金説明会の時にも、市老連に加入するメリットを話しているが反応はない。

○委員

自分の所属しているクラブには対象年齢者の半分くらいしか参加していない。仲間に参加を勧めても、「老人くさい」という声が多い。老人クラブの活動の見直しなども、区老連の方で考えをまとめてほしい。

○和田委員

名前の変更についても検討している。ハイカラの名前に変えているところが多いが、新規参加者の数はあまり変わらない。

○委員

我々の地区には対象が1,100名いるが、会員は50名で、3%しか会員になっていない。会員を増やしていくという課題について、今後会長がどう考えているかお聞きしたい。

○和田委員

若葉区のクラブの会長は85歳以上が多い。会長が体調不良で退いた後に、誰も後継者がいないというクラブも多い。後継者不足と新規会員の減少ということで、会員の減少が進んでしまう。老人クラブは単独では存続できないという危機感もある。その対策として、福祉の関連団体の傘に入らないといけないと考えている。まだ公表していないが会長同士の話し合いは始まっている。

○委員長

自治会から老人クラブを立ち上げてほしいという依頼があり、この地区が高齢者の終の棲家になるようにということで、老人クラブを発足させた。現在は57名の会員である。区老連の1人300円という予算は、8つのサークル活動の一つのサークル活動費がなくなってしまうこともあり、区老連には加入していない。

発足当時は平均年齢が60代であったが、現在は75歳を超えている。また歩こう会

などの活動も、参加できる人が少なくなっている。インターネットでの事務処理もとても大変に感じている。

最期まで老人クラブに入っていて良かったと思えるクラブにするために、会員の年齢にあわせて活動内容も変えていこうと思っている。定例会では、講座・講演を年に8回くらい開いている。高齢者といえども、時代に合った新しい知識を身に付け、品性や人間性の向上をこころがけていく必要があると考えている。後継者不足という問題は、老人クラブだけではなく、ささえあいのグループでも同じであるので、皆さんからもいろいろ情報をいただきたい。

○和田委員

老人クラブが地域で存在しているということ自体を知らない人もいる。対象年齢になったら、会員が加入を勧めに行くということも必要かもしれないが、60歳で加入を勧められてしまう。75歳以上の高齢者の情報も民生委員から得ることも難しいため、どこにどのくらい対象がいるのかもわからないという現状であり、会員増強はとても難しい問題と考えている。

○委員

テレビで、人生100歳時代であることを「アラハン」という言葉を使っていた。人生100歳社会では60歳はまだ若く、70代80代が多くなってくる。自治会や町内会も老人クラブと同じような問題をもっている。老人クラブは、自治会や町内会と同じ組織になっていくのかと思う。

○和田委員

100歳以上は6万7千人。その89%が女性である。老人クラブの会員も7割は女性である。会長や役員も女性にやってほしいと考えている。

○委員長

報告事項である「平成30年度若葉区支えあい助けあい団体の方々の交流会・話し合いの会について」井崎委員から発表していただきたい。

○井崎委員

この場で、もう一人の生活支援コーディネーターである田中を紹介させていただきたい。

○田中生活支援コーディネーターより挨拶を行う

○井崎委員

第3回の交流会を10月24日に行った。生活支援の活動を中心に行っている24団体74名が参加した。第1回、2回の交流会で「担い手不足、移動支援について、活動場所の確保、支えあいを必要としている方への支援」という課題があがってきたため、第3回は「担い手不足について」ということに焦点をあてて話し合った。

理由と解決策を個人ワークとグループワークで出し合うというワークショップ方式で行った。活発に意見を出していただき、「担い手不足」として15の理由と、9つの解決策としてまとめることができた

解決策としては、「地域住民の意識改革」、「担い手となりうる方を誘う」、「イベントで住民を集める。」「子育てイベント・福祉教育」「啓発・啓蒙・広報」「自治会との連携」「担い手確保の好事例を共有する」「支えあい団体同士の協力」「有償ボランティア」という意見がでた。このワークショップを参考にして、生活支援コーディネーターも活動を盛り上げていきたい。

第1回、2回の交流会において、様々な課題をもっと解決していきたい、他の団体ともっと交流したいという意見が出たため、「若葉区支え合い助け合い団体連絡会の設立について」の提案をさせていただいた。まだ案の状態であるが、目的は「若葉区支え合い・助け合い活動団体は、支え合い・助け合いの円滑な活動を図るため、活動団体間の情報交換、活動団体及び活動員の資質の向上を図ること。また支え合い・助け合い活動の支援等を通じて若葉区内の支え合い・助け合いの活性化を図ること」であり、活動内容としては、(1) 活動団体間の情報交換等の開催 (2) 活動団体及び活動委員に対する研修の開催 (3) 若葉区内の支え合い・助け合い活動団体への支援 (4) その他、本会の目的を達成するために必要な活動と考えている。

事務局は社会福祉協議会若葉区事務所であり、12月現在18団体が参加を表明している。年度内に準備会を開催したのち、来年度より発足を予定している。

本連絡会を通じて若葉区の支え合い、助け合い活動の推進に努めていきたいと考えている。

○委員長

ただいまの説明について、なにか質問等があれば、発言をお願いしたい。

○委員

野呂の自治会では見守り活動として、自治会長やそのOB達が活動している。4年前から買い物支援活動も行っている。その活動を支えてくれているのは、社会福祉協議会である。この活動は「走り始めた『買援隊』！千葉県若葉区野呂町の買物支援サービス」としてYouTubeでも流れているので、参考にしてほしい。

○委員長

24団体参加したが、18団体のみ連絡参加表明をしているが、参加表明していない団体の理由は？

○井崎委員

実際に生活支援活動を行っている団体は若葉区では22団体である。参加を表明していない団体は確認中である。申し込みを忘れていた団体もあると思う。こじんまり活動しているので連絡会の参加は希望しないという団体もあった。

○委員長

若葉区で22団体というのはとても少なく感じる。このような活動をしているところが増えていくのが望ましいと考える。皆で増やしていかないといけない。

○委員長

次に「その他」ですが何かあるか

(なし)

特にないようなので、本日の議題はこれで終了したい。その他として事務局からお願いしたい。

○事務局

右上に「社協地区部会のみ提出」と四角で囲ってある資料を見ていただきたい。

例年、第4回の推進協では、各地区部会から重点取組項目の実績を報告いただいていた。今年度は、これまでより一歩踏み込んだ形で、困っていることや行き詰っていることなど地区部会活動をしている中での課題及び課題に対する取り組みを事前に上げていただき、発表、意見交換を行いたいと考えている。

「地区部会活動の中での課題と取組み」を送付するので記載いただき提出をお願いしたい。

また、地域福祉課から重点取組項目の進捗状況の提出依頼が来る予定であるため、進捗状況記録票に30年度の取組実績（指標の実績、30年度取組実績、今後の課題）の記載し、提出をお願いしたい。双方ともスケジュールとしては、1月下旬に依頼し、2月中の提出期限と考えている。

最後に、次回の開催日程は、3月20日（水）を予定している。

閉会